青が消える　（村上春樹）　＊＊

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。［50点］

僕は青の消滅について何かのジョウホウが得られないものかと、何人かの友人に電話をかけてみたのだが、誰もつかまらなかった。最後に仕方なく、別れたガールフレンドのアパートに電話をかけてみた。電話には知らない男が出た。どうやら僕のガールフレンドの部屋では賑やかなパーティーが繰り広げられているようだった。ロック・ミュージックが大きな音でかかっていた。そしてそれにも負けないくらいの大声で人々が語り合っていた。僕はその男に向かって大きな声で僕のガールフレンドを出してくれと言った。

「楽しんでいるところを邪魔して悪いんだけど、ちょっと確かめてほしいことがあるんだ」と僕は彼女に言った。「ひょっとして、君のまわりで青が消えていないかな？」

「青ってなによ？」と彼女は半分喧嘩腰で言った。

「色の青だよ」と僕は説明した。「海の青、空の青。実はさっきアイロンをかけている途中でシャツの青がトツゼン消えちゃったんだ。シャツだけじゃなくて、家中の青という青がみんな消えちゃったんだ。でもそれが僕の家の中のことだけなのかどうか、わからないんだ。［a］君のところはどうなのか知りたかったんだ。青がそこにまだあるかどうか」

「用事はそれだけなの？」

「そう」と僕は言った。

「あなたってどうしてそんなに①辛気臭い人生を送らなくちゃならないの？」と彼女は言った。「よく考えてごらんなさいよ。今日は二十世紀最後の夜なのよ。一生に一度あるかないかのことなのよ。だから世の中の人はみんなメイッパイ楽しんでいるんじゃない。耳を澄ませてごらんなさい。みんなが楽しんでいる音が聞こえるでしょう？　なのにどうしてあなたはわざわざこんなときに、青がどうした、アイロンがどうしたなんてロクでもない話を私に聞かせなくちゃならないのよ。青がなくなって、それがどうだっていうのよ。なんでそんなことで私のところにわざわざ電話してこなくちゃならないのよ。どうして他人の楽しみにいちいち②水をささなくちゃならないのよ」

そして彼女は電話を切った。

僕はコートを着込み、外に出てみた。ぴりっと寒くはあるけれど、B雲ひとつない気持ちの良い冬の夜だった。時計は十一時半を指していた。僕は家を出るとまっすぐにブルーラインの地下鉄の駅まで行ってみた。ブルーラインは何もかもがブルーでできている。電車もブルーだし、切符もブルーだし、駅員の制服もブルーだし、駅の壁だってブルーなのだ。そうしておけばこの立体エメイロのような東京の地下鉄で乗客が迷うこともないだろうというのが、彼らの言い分だった（もちろん何をしようとみんな結局迷ったのだが）。でも今では、ブルーラインの何もかもが白に変わっていた。白い電車が白い壁の中を走り、白い制服を着た駅員が白い切符を売っていた。それは僕に古い記録映画で見たスターリングラードの冬季オコウボウ戦を思い出させた。

「青はいったいどうしたんですか？」、切符売り場の近くで機械の修理をしていた白い駅員に僕は聞いてみた。「青にいったい何が起こったのですか？」

「政治のことは私に聞かないでください。C私はただの駅員です」と駅員は早口で言った。

問一　二重傍線部**ア**～**オ**の片仮名を漢字に改めなさい。

問二　傍線部①「辛気臭い」、②「水をさす」の意味を答えなさい。

問三　波線部A「別れたガールフレンドのアパートに電話をかけてみた。」とあるが、このときの「僕」の気持ちはどのようなものか。説明しなさい。

問四　空欄部**a**に入る語として最も適当なものを次の**ア**～**エ**の中から選び、記号で答えなさい。

ア　だから　**イ**　むしろ　**ウ**　しかし　**エ**　なぜなら

問五　波線部B「雲ひとつない気持ちの良い冬の夜」という表現からわかる「僕」の気持ちは、どのようなものか。最も適当なものを次の**ア**～**エ**の中から選び、記号で答えなさい。

ア　二十世紀最後の夜を楽しもうという気持ちになっている。

イ　青が消えてしまったことなど忘れてしまおうと思っている。

ウ　ガールフレンドのことはもう吹っ切ろうと思っている。

エ　何とかしてパーティーに参加したいという気持ちになっている。

問六　波線部C「私はただの駅員です」という言葉から、駅員の属している組織はどのようなものと考えられるか。説明しなさい。

問六	問五	問四	問三	問二		問一
				②	①	ア
						イ
						ウ
						エ
						オ

学年
組
番号
氏名
得点

青が消える　（村上春樹）　＊＊

〔出題の意図と留意点〕　問一、漢字の書き取り。問二、言葉の意味。問三と問五は、関連させて考えることができるかどうかがポイント。問四、文脈が把握できているかを問う問題。問六、本文中に書かれていないことが記述できるかどうかを見る問題。

☆解答例と配点

問一　**ア**　情報　**イ**　突然　**ウ**　目一杯　**エ**　迷路　**オ**　攻防　〈２点×５〉

問二　①　思うに任せず、いらだたしい気分のこと。　②　うまくいっているのに邪魔をすること。〈４点×２〉

問三　青が消えたことを確かめたいと思い、また、そのことを話すことで、彼女の気持ちも確認したかった。〈10点〉

問四　ア　〈６点〉

問五　ウ　〈６点〉

問六　自分自身で物事を考えることはできず、上の言うことには従わなければならないというような組織。〈10点〉

計50点

青が消える　（村上春樹）　＊＊＊

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。［50点］

「青はいったいどうしたんですか？」アキップ売り場の近くで機械シュウリをしていた白い駅員に僕は聞いてみた。「青にいったい何が起こったのですか？」

「政治のことは私に聞かないでください」と駅員は早口で言った。

「ということは、これは政治のせいだと言うんですか？　政治のせいで青がなくなったんですか？」と僕は聞いてみた。

「だから政治のことは私に聞かないでくれと言っているじゃありませんか」と彼は言った。そして彼は被っていた白い帽子を手に取って、それを床に投げつけた。「あなたは私にいったい何を求めているんですか。私は何も知りません。そういうことはもっと偉い人に聞いてください。中央コンピューターに聞いてください。私は青のことなんてこれっぽっちも知らないんですよ。私はただ言われたとおりに働いているだけです」

僕はあきらめて、べつの青を探してみることにした。パブロ・ピカソの画集があれば〈青の時代〉のページを探せるんだがなと思った。でももちろん大晦日の夜には書店は開いていない。あるいはアメリカかフランスの旗を探してもよかった。そうすれば青が世界にまだ残っているかどうかわかるはずだ。しかし東京のいったいどこに行けばアメリカかフランスハタが見られるのだろう？

時計は十一時四十五分を指していた。時計の針を見ているうちに僕の不安はだんだん高まってきた。こんな風に青という色を失ったまま――そして僕以外の誰ひとりそれについてとくに心配もしていない（僕にはそう思えた）まま――新しいミレニアムに入ってしまったら、なんだかすごくよくないことが起こるんじゃないかという気がしたのだ。

僕はクレジット・カードを使って公衆電話から内閣総理府広報室に電話をかけ総理大臣を呼び出してみた。もちろん総理大臣が本当に電話に出てくるわけではない。国民ギモンや苦情に、総理大臣がひとつひとつ個人的に答えてくれるコンピューター・システムをN社が新しく作り上げて、実用化されたのだ。声も合成だが、本当に総理大臣の声に聞こえる。

「青はまことに美しい色であります、岡田さん」と総理大臣の声は静かに言った。「ご存じでしょうか。私の好きな短歌にこういうものがあります。『白鳥は哀しからずや／空の青／海のあをにも染まずただよふ』、なんという美しい短歌でしょう、岡田さん」

「ねえ総理大臣、青がなくなってしまったんですよ」と僕は電話に向けて怒鳴った。

「かたちのあるものは必ずなくなるのです、岡田さん」と総理大臣は言い聞かせるように僕に言った。それが歴史なのですよ、岡田さん。好き嫌いに関係なく歴史は進むのです。石油だってなくなります。ウラニウムだってなくなります。コミュニズムだってなくなります。オゾン層だって、二十世紀だって、ジョン・レノンだって、神様だってなくなります。スイング・ジャズだって、ＬＰレコードだって、人力車だってなくなります。岡田さん、どうして青がなくなってはいけないのですか、岡田さん。明るい面に目を向けなさい。何かがひとつなくなったら、また新しいものをひとつ作ればいいじゃありませんか。その方が経済的だしそれが経済なのですよ、岡田さん」

僕はわけのわからないままどこまでも通りを歩いた。やがて町中の時計が十二時を打った。みんなが一斉カンセイをあげ、歌を歌ったり、物を投げたり、抱き合ったり、シャンパンを抜いたりした。新しいミレニアムがやってきたのだ。誰も消えた青のことなんか気にしてはいなかった。

でも青がないんだ、と僕は小さな声で言った。**そしてそれは僕が好きな色だったのだ。**

問一　二重傍線部**ア**～**オ**の片仮名を漢字に改めなさい。

問二　駅員の答えから、この社会はどのような社会であると考えられるか。適当でないものを次の**ア**～**エ**の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　非人間化してしまったような社会。　**イ**　合理的でないものは認められない社会。
ウ　個性が高く評価される社会。　**エ**　全体主義的で中央集権的な社会。

問三　波線部Ａ「僕の不安」とあるが、それはどのようなものか。説明しなさい。

問四　波線部Ｂ「総理大臣を呼び出してみた。」とあるが、「僕」は、駅員のどんな発言から、総理大臣に電話しようと思いついたのか。その単語を二字で答えなさい。

問五　波線部Ｃ「それが歴史なのですよ」、Ｄ「それが経済なのですよ」から、どのようなことが読み取れるか。説明しなさい。

問六　最後の「僕」のつぶやきが太字（ゴシック体）で表記されているのはなぜか。「僕」の心情を踏まえて説明しなさい。

問六	問五	問四	問三	問二	問一
					ア
					イ
					ウ
					エ
					オ

学年
組
番号
氏名
得点

青が消える　（村上春樹）　＊＊＊

〔出題の意図と留意点〕　問一、漢字の書き取り。問二、駅員の言葉から、背景である社会の様相を推察する。問三、本文中の表現を使って説明できるかどうかを問う。問四、問二と関連づけて考える。問五・問六は、本文全体をふまえた総決算の問題であり、読解力ばかりでなく、記述力も重要である。

☆解答例と配点

問一　**ア**　切符　**イ**　修理　**ウ**　旗　**エ**　疑問　**オ**　歓声　〈２点×５〉

問二　ウ　〈４点〉

問三　青が消失したのに、誰もそのことを気に留めず、新しい世紀に入るとよくないことが起こるのではないか、という不安。〈10点〉

問四　政治　〈６点〉

問五　かたちあるものは必ずなくなり、一つなくなったらまた新しいものを作ればよい、という消費社会のありかた。〈10点〉

問六　生産と消費のサイクルを当然としている周囲と違って、好きな青にこだわりたいという「僕」の心情を強調するため。〈10点〉

計50点